

令和8年度第1回草津市廃棄物減量等推進審議会 会議録

■日時：

令和8年7月15日（水）10時00分から11時15分まで

■場所：

草津市役所2階 特大会議室

■出席委員：

橋本委員〔会長〕、松村委員〔副会長〕、金谷委員、小西委員、有江委員、
坪委員、石本委員、村上委員、安栗委員、上田委員

■欠席委員：

なし

■事務局：

太田部長、小川総括副部長〔環境経済部〕
奥野課長、石松係長、桐山主任〔資源循環推進課〕
田中所長、三谷主任〔クリーンセンター〕

■傍聴者：

なし

1. 開会

開会にあたって、会長および南川副市長より挨拶

事務局から委員紹介、事務局自己紹介

●事務局

草津市廃棄物の適正処理および再利用ならびに環境美化に関する条例施行規則第19条第2項に基づき、委員の半数以上が出席していることから、審議会が成立していることを報告。

2. 諮問について

南川副市長から会長に、草津市廃棄物の適正処理および再利用ならびに環境美化に関する条例第20条の2第2項の規定に基づき、草津市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しに係る基本的事項について諮問書を手交。

3. 議事

(2) 中間見直しの主旨・背景等について [資料2]

(3) 審議スケジュール(予定)について [資料3]

●事務局

＜資料2、資料3について説明＞

～委員からの質問、意見なし～

(4) ごみ処理の現状について [資料4]

●事務局

＜資料4について説明＞

●委員

5ページのごみ処理量の資源回収量において、「資源回収量の減少傾向につながっていると考えられます」とあるが、表3では、古紙類はむしろ増えている。日本全体を見ると、新聞の購買、購読が減っていると思うので、もっと古紙が減っていると思っていた。「古紙類の収集日を統合した」ということが資源回収量の減少に繋がる理由について、見解をお聞きしたい。また、町内会等が実施した資源回収量について、資源物の種類の内訳がわかると、市民が出している量そのものが減っているのか、出し方が変化しているのかがわかるかと思うので、教えてもらいたい。

●事務局

まず、町内会等が実施する資源回収量の内訳については市で把握をしている。今後、古紙類の量については、この審議会の中で議論させていただくごみ量の将来推計にも関わってくるため、その際にもう少し詳しい資料をご提出させていただければと考えている。

つぎに、古紙類と資源回収量の考え方について表3の一番下に、古紙類と町内会等が実施した資源回収量とあるが、まず上段の古紙類は、行政回収の古紙類の量になる。令和5年の10月に収集日の統合をし、これまで新聞、雑誌・雑紙、段ボール、それぞれ月に1回ずつ出せるという状況だったものを、それぞれ3つの品目を同じ日に出してよいと変更した。その「古紙類の日」の収集日を月2回としたので、市民側からすると、出していただけの機会が、月それぞれの品目は1回だったものが、月2回出せるようになり、ごみ集積所に出しやすくなったと考えられる。

そのことにより、資源回収活動されてない地域の古紙類の収集量が増えたり、これまでの焼却ごみに入っていた段ボールや雑誌・雑紙類が積極的に行政回収に出しやすくなったりしたことで、収集量が増えたのではないかと分析をさせていただいている。

一方で、町内会等が実施した資源回収量は年々減ってきている。過去からの数字を

見ると、新聞・広告の割合が多かったが、やはり新聞等の購読量が減少しているということもあり、それに伴い、町内会等が実施する資源回収量が減ってきているのではないかと分析をさせていただいている。

●委員

先ほどの古紙類の回収の件について、もちろん、行政回収の収集日が2回とも全ての品種が出せるとなったことも大きいかなと思うが、さまざまな情勢の変化で、町内会等の一部において、活動の継続が困難になり、行政回収に出されるようになったというパターンもあるかなと思う。自社でも採算の合わない団体等はお断りをしていて、他の事業者に頼むか、行政回収で出すようにアナウンスをさせていただいたこともあり、行政回収の量が増えて、資源回収量が減ったということも一つあるかなと思う。

新聞や雑誌はコロナ禍以降激減していて、それらは重量的に重いこともあり、回収量が減っていると思うが、ごみ減量の取組として、今までごみとして出されていた古紙類を資源ごみとして出されるようになる傾向もあると思うので、そこまで減少はしていないものとしている。

●会長

12ページから14ページで、まず、サーキュラーエコノミーについて、国内の潮流ということで整理いただいているが、この言葉は、欧州発で輸入されてきている面もあるので、国際情勢の方に書き、そのあとに国内潮流という整理のほうがいいかなと思う。また、サーキュラーエコノミーに関して、温暖化対策とセットで議論されることが多いので、そういった視点での取りまとめも少し検討いただければと思う。なお、直近の状況として、資源安全保障といった話が出てきているので、ローカルな取組でそれが直接どうなるということはあまりないと思うが、資源安全保障の観点がすごくクローズアップされているので、そういったことも入れてもいいかなと思う。

(5) ごみ組成調査について [資料5]

(6) 市民・事業所アンケートについて [資料6・7・8]

●事務局

<資料5、6、7、8について説明>

●委員

資料6の市民アンケートについて、市民3,000人を無作為抽出してアンケートを実施するというので、当然、送られた人が回答するという想定だと思うが、例えば、4人家族で、夫婦と大学生、高校生の子どもが2人いるとして、このアンケートがお父さんに届いたとする。家庭でのごみ処理について尋ねる際に、例えば2ページ、3ページあたりに「取り組んでいますか」や「どのようにしていますか」という問いがあるが、その家庭で実際に行動している人に聞かないと、実態に合わないのではないかな。このことから、送り方としては、この無作為抽出で送るしかないと思うが、誰

が答えるのかという点について、ごみに関する行動に一番取り組んでおられる方に答えてもらうとするのか、それとも割り切って、送った人に回答してもらうのか、はっきりしたほうがいいと思う。

●事務局

調査票の記入にあたっては、「できる限りアンケート対象ご本人が回答してください。もしご都合で回答できない場合は、18歳以上のご家族の方がご回答いただいても結構です。その場合は回答される方ご自身の立場でお答えください。」というような文言でアンケートを発出したいと思っている。これは前回アンケートを実施したときと同様の文言としており、そこは変えずに記載したいと考えている。

●委員

確認だが、資料6の1ページ、問1や問2は、アンケートが送られた人の年齢、職業ではなく、回答した人の年齢、職業という解釈でもいいということか。

●事務局

そのとおり。

●委員

無作為に3,000人の方にアンケートを送られるとのことだが回答率はどれぐらいの期待を持って行うのか。また、前回の実績などあれば教えていただきたい。以前、自身の学区でアンケートを実施した際に全戸配布をしたが、回答が70件しか返ってこなかったという実績があるので、どのように考えているのか確認したい。

●事務局

基本的な考え方として、市では、現在の草津市の人口規模から、おおむね1,000件程度の回答を得るような形でアンケートを実施しており、発送を3,000件と整理している。

3,000件を発送して1,000件の回答をいただきたいと考えているが、前回の結果としては同じく3,000件の発送を行い、回答件数が1,160件、(38.7%)の回答を頂戴したところである。

当時は、インターネット回答も実施したものの、インターネットによる回答は少なく、1,160件中88件がインターネットによる回答であった。

近年、市で行っているアンケートの結果を見ると、インターネットによる回答数が増加してきていることから、今回実施するアンケート調査についても良いほうに転んでほしいと考えているが、おおむね1,000件以上の回答数を目指して調査を行う予定をしている。

●委員

前回実施したアンケート調査で、30数%の回答率だったということだが、その回答

者の年齢構成を教えてください。

●事務局

前回のアンケートの回収結果１，１６０件のうち、一番割合が多かったのは７０代以上の方で全体の回答の中の２８．１％、続いて６０代の方が１８．５％、５０代の方が１６．０％、４０代の方が１８．１％、３０代の方が１１．１％、１０代の方が７．９％という内訳になっており、７０代、６０代の方が、半数近くを占めているという結果だった。

●委員

アンケート調査を１１月に実施されるということだが、一般の方々の意識を高めるきっかけになると思う。こういったアンケート調査を実施する旨の告知は何かされるのか。例えば、イベント等で、アンケート調査の実施を周知するような企画などあれば教えていただきたい。

●事務局

まずアンケートの調査時期は８月、ごみの組成調査は１１月末に実施させていただく予定をしている。ごみの組成調査については、前回の調査時期が１１月末だったことから今回も同時期に合わせて実施する。アンケート調査については、特段事前告知の予定はないが、市民への啓発としては、１０月が３Ｒ推進月間や食ロス削減推進月間になっていることから、１０月を中心に啓発を行う予定をしている。

先ほど立命館大学と連携して食品ロスの対策を進めていくという説明をさせていただいたが、啓発についても立命館大学食マネジメント学部と一緒に、９月、１０月、１１月と実施する予定をしているため、そういった機会をとらえて市民に向けた啓発を進めていきたいと考えている。

●委員

個人的な話だが、自身はえふえむ草津のパーソナリティであるので、立命館大学の方に出演いただくなど、何か市民に対しての啓発ができればなと思うのでよろしくお願いしたい。

●委員

このアンケート調査票が送られてきた際に、正直私はこの分厚さだと、回答するのが大変であると感じた。例えば、年代別に１０代から３０代の方は、二次元コードだけで簡単に１枚のハガキだけで送るなど、そういった工夫はされるのか。

●事務局

アンケートについては、全ての方にインターネット回答ができるよう、回答用の二次元コードを設けるが、より答えやすくなりますように作っていきたいと思う。

●委員

紙の調査票と二次元コードの紙の両方が送付されるという認識で合っているか。

●事務局

そのとおり。市民アンケートとしては、「ごみ減量化・資源化に関するアンケート」が紙の調査票と二次元コードを、「食品ロスに関するアンケート」が二次元コードのみとなっている。

●委員

見える化されることによってものすごい分厚さで、二次元コードによる回答でもすごい長文を答えないといけないのかと感じた。紙ベースで数枚送られる方と、年代に合わせて二次元コードを記した紙1枚だけをお送りする方というような分け方をされてもいいかと感じた。

●事務局

アンケートの配布方法等については検討するが、市の統一した考え方として、紙のアンケートと二次元コードのどちらでも回答ができるように実施しているため、どちらか一方にするということになると、少し慎重な議論が必要になると考えることから、答えやすいようにあまりボリューム感が出ないよう工夫しながら、アンケートを実施させていただく。

●委員

ごみ組成調査について資料5の裏面の食品類の細分類について確認したい。

まず、調理くずと食べ残しを厳密に分けられるのか。自分の家で考えると、調理くずも食べ残しも、流し台の三角コーナーに入ると思う。排出段階で分けることは不可能ではないとしても、排出後にその2つに分けるのは、ほとんど不可能だろうなと感じる。

もう一つは、食品ロスの手つかず商品の重量についてだが、容器の重さはどのように考えるか。例えば、ジャムは、紙やプラスチック、びんに入っている。直接、一つずつ量るとするのは現実的ではなく、何らかの補正を行うものかと思うがどうか。

●事務局（中外テクノス）

調理くずとしては例えば、人参の皮を削ったものや大根の皮などを調理くずとして判断している。食べ残しとしては、例えば、唐揚げを半分かじったまま排出されているものなどを指す。目視をして、大体判別はできると考えている。実際に一つひとつきっちり確認し、もし疑義が生じた場合には、全員で集まって意見を出し合い判断する。これまで食べ残しと調理くずの判別については、難しいと思ったことはない。

つぎに、手つかず食品の容器について、指摘のとおり非常に悩ましいところではあるが、調査した後に、品物を並べて、写真を撮る必要もあり、中身だけを出して写真を撮ることは難しく、現状どこの自治体でも、容器の重量も含めた形で割り切って実施している。

●委員

特に補正はないということか。

●事務局（中外テクノス）

そのとおり。現段階で補正を行うはしていない。

～その他、委員からの質問、意見なし～

4. 閉会

●会長

閉会挨拶